おひざのうえで 2023③

（副園長の子育て応援通信）

「肯定的に見ていこう」

せんりひじり幼稚園　　副園長　安達かえで

　今日で、15クラスのクラス懇談が終わりました。皆様お忙しい中ご出席いただきありがとうございました。
　グループワークでは、悩みを出し合い、そして保護者の方同士でユニークなアイデアや心温まるアドバイスを出し合っていましたね。保護者の方同士で素晴らしい答えを見つけていかれているのを見ると「園長や副園長の出る幕はないなあ・・・」と感じます。先輩ママたちのアドバイスは実体験から来るのでとても参考になりますね。1人目お母さんは先輩お母さんに支えられ、そしていずれきっと後輩お母さんを支えていかれるのだろうなと思います。こうやってステキな連鎖が続いていることが素晴らしいと思います。

　子育ては正解が見つかりにくいものです。いろいろ試しているうちに解決したりします。困ったことがあると、どうしようか子どもの様子をよく見ますよね。どうやって関わろうか考えたりしますよね。それは「答えは子どもの中にある」からです。私たちの保育も計画を立てるときに、まず、一番大切なのはその時の子どもの育とうとしていることは何かを見ます。そこに合わせて計画を立てていかないと大人の都合の保育になってしまうからです。

　ところが母と子は一心同体のように近い存在。近すぎるからこそ、子どものいいところもよくないところも見えにくくなることがあります。そして冷静に関わっていられなくなったりすることもあるでしょう。何年か前に、あるお母さんから「家で毎日毎日こどもたちが兄弟げんかをするので、それを止めたり解決することに疲れきってしまいました。」という相談がありました。兄弟姉妹は遠慮なく思いをぶつけ合うことのできる相手ですから、自分たちで円満解決するのを待っていてもなかなかけんかは止まらない。最後は下の子が泣いてしまうので上の子を叱るといったことが多かったり・・・。そして上の子を叱ってしまった自分を反省したりと、ほんと疲れちゃいますよね。

　子どもたちが見せる様々な姿を、肯定的に捉えることが非常に大切なことですし、気持ちが楽になることもあります。「子どもの育ちは前にしか進みません。子どもが以前にはできていた何かができなくなったように見えるのであれば、それはそれまでにあった力が失われたり弱まったからではなく、子どもの中でなにかが育ったからと考えるべきです。
　そして今できない何かをできるようになってほしいと思うのであれば、どういう力が身につけばそれができるようになるかを考えるべきです。」と大妻女子大学の岡健先生は、言います。
　私たちは子どもの育ちを「足し算」で見ていくために、子どもを肯定的に見取るための「リフレーミング」という研修をしてきました。子どものできないことを課題としてみるのではなく、やろうとしていること育とうとしている力をたくさん見つけてあげることで、今育っている力

をさらに伸ばしたり、次に育てたい力を伸ばしやすい環境づくりや関わりをすることができます。

以前、園庭でサッカーをしていた年長組の子どもたちがなにやら7．8人集まってもめていました。「まだはじまってへんやろ」と、いつ始まったのかわからないうちに点を入れられたチームが怒っています。点を入れたチームは「「いくぞって言ってからキックオフした」。「聞こえなかった」。「言った」。「ずるい」。「もんくいうな」・・・。の言い合いをしていました。どうするかなと思ってしばらく見ていたら、A君が「みんなが試合が始まったってわかってなかったらサッカーにならへんやろ。最初からやりなおそ。」とボールを真ん中に持っていきました。そしてみんなはそれにつられて最初から試合開始となりました。

その言い出したA君はまさしく「毎日兄弟げんか」で悩んでいたお母さんのお子さんだったのです。毎日小学生のお兄ちゃんと兄弟げんかをしながら、どうやったら納得のいく解決ができるのかを考えてきたのでしょうね。

子どもは毎日が生きる練習。子どもが育とうとしていることを肯定的にとらえることは時に難しいときもありますが、少し離れると見えてくる。けんかがいいとは言いませんが、人間関係の練習しているのだと思って見守りたいですね。